

必修科目

鷹の爪

ITバブルの一夜の夢に沸き、夢に泣いたゼロ年代。
震災を経験し、身の程を知りすぎて
夢を持ってなくなったテン年代。
2000年以降のイタさとリアルを、
ネット時代の新・国民アニメ
『秘密結社 鷹の爪』を
テキストに読み解く。

**ネット動画世代のための
あたらしい教養読本**

Naito Rieko

内藤理恵子

愛知大学国際問題研究所客員研究員

お試し版



第一限

『鷹の爪ライジング』は『ダークナイト ライジング』を超えた!? ITバブルの夢の跡に生まれたオープンキッチン型Flashアニメ『鷹の爪』の新規性

「必修科目鷹の爪」を受講される皆さま、こんにちは。

この講義はアニメ『秘密結社 鷹の爪』を通じて、多岐にわたるジャンルを……いや、ジャンルの垣根を超えて楽しく愉快地に学んでいく科目です。

私は鷹の爪団に助けられたことがあります。

2012年の終わりのことでした。私は複数の大学で講師をしているのですが、講義の際に学生から提出される「質問票」に、「恋の悩み」が書いてあったのです。私はなるべく真摯に応えようと思いましたが、自分の恋愛がうまくいった覚えがないのに、学生に「恋のアドバイス」ができるわけがない。

学生「彼氏が浮気したみたいですが、どうしたらいいですか」

私「そんなエネルギーを無駄使いする彼氏は環境に悪いので、別れたらいいんじゃないでしょうか」

学生「……」

という感じで、私なりに最初は応えていたのですが、授業に関係のないやり取りを延々と循環しているサイクルに終止符を打ちたくて、私は本、雑誌などさまざまな資料を読みました。しかし、答えが見つかりません。

もちろん、若い頃は「恋に恋い焦がれる」時があっても良いと思います。しかし、学生たちの様子を見てみると「恋愛しなきゃ強迫」がまず先にあり、その後から「恋愛」「彼氏彼女」がズルズルと付いてきて、そのために学生の本分である「学び」や、「恋愛関係以外の人間関係の構築」が疎かになっているような気がしたのです。でも、それがわかっていながら、うまく説明できない。言語化を試みても、指の間から砂が零れ落ちるようでした。

「恋愛を人生の第一のモチベーションにすると、心がポッキリ折れる日があるから自分の中に違う軸も持った方がいいよ」というシンプルなメッセージを、手を変え、品を変え伝えても、「先生に彼氏いないからそんなこと言うんじゃないわ・W」みたいに流されてしまうのです。

そこで、ふと思い出したのが、鷹の爪団が邦画『BALLAD 名もなき恋のうた』（劇場版アニメ『クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶアッパレ! 戦国大合戦』を原作とした実写邦画）を「勝手に宣伝する短編ムービー」でした。

そういえば、これが私と鷹の爪団との出会いでした。「恋するワタシの不思議パワー」を利用して世界征服するために「錦鯉」（恋と鯉のダジャレ）を飼う……しかも、白衣を着た熊（当時は「熊」という認識でしたが、その後、この熊がレオナルド博士であり、博士に「熊」と呼びかけると大変なことになるのを知りましたので、現在では絶対に「熊」とは口が裂けても言えません）……がどんどん錦鯉を食べてしまって、結局、7匹もの錦鯉（鯉に恋姫という名を付け、第7恋姫まで出てくる）がチェンジするという、本当にわけのわからないもの。でも、何か心に引っ掛かるものがありました。

その時のことを思い出すと、ちょっと頭が混乱したことを覚えています。同時にこんなことを思いました。

「クレヨンしんちゃんって実写化するのか」「いや、それはともかく、なぜクレしん自身ではなく、変なキャラが宣伝しているのか」「しかも映画の世界観ブチ壊しの動画で」「しかし異常に面白い」

で、その時に気が付いたのです。現代日本の若者の「恋するワタシの不思議パワー」が資本主義に搾取されていることを。服・美容・メイク・レジャー産業……ありとあらゆる消費促進エネルギーになっているのだな、と。本来、恋愛とはもっと純粹で、そのもの自体が目的であるべきなのに、綺麗な服を着て、髪を巻いて、デートに行ってお金を使わなければならない。バブルの時代ほど突出して目立っているわけではありませんが、今の時代も若者はクリスマスやバレンタインはさらなるお金を使って「イベントをこなさなければならない」という強迫観念にとりつかれているのだなあ、と。

そこで、学生に鷹の爪団の「恋するワタシの不思議パワー」の小話をしたところ、その後、学生から「先生が言いたいことがなんとなくわかった。恋愛に依存しないで、とりあえずレポートがらばる。先生は伝えたいことが伝わるまで、ぜったいに諦めない人だなあ……」といった前向きなコメントをもらって、「鷹の爪団に救われた」と思ったのでした。

次に、鷹の爪団と出会ったのは、またもや講義の準備の途中。あれは2013年1月1日のことです。独身で、友達も少なく他にやることも特になく私は元旦から講義の準備をしていました。その時は「企業と社会」という科目の準備で、キャラを使用したマーケティングについて調べていくうちに「ゆるキャラ」を使ったビジネスについて調べようと思い立ち、みうらじゅんの「ゆるキャラ日本一決定戦」のDVDを観たり、犬山秋彦・杉元政光著『ゆるキャラ論～ゆるくない「ゆるキャラ」の実態～』を読んでいました。

しかし、ここで厚い壁にぶつかることになります。日本の地方各地に「ゆるキャラ」を見出した「みうらじゅん氏本人」が『ゆるキャラ論』の中で「ゆるキャラはもうゆるくなくなった宣言」をしてしまっていたのです。これは困りました。ゆるキャラがゆるくなくなると、本当にゆるいキャラはどこに?そこで、急遽、ツイッターで「本当にゆるいキャラはいないのか」と問いかけたところ、「ゆるくなくなったゆるキャラは終わらせたほうがいい」「ゆるキャラは、もはや北海道にいた大泉洋が東京に出てきた時みたいになった」など……その後「未だにゆるいキャラはいないか?」という議論になり、最終結論として出てきたのが鷹の爪団の面々の「ゆるさ保持の凄さ」でした。

認知度は高くなっているし、ファンも多い。劇場版も出ている。しかもスポンサーもじゃんじゃん背負っているのに「気負わずにゆるい」。マイナー感を失わないまま、メジャーで活躍する鷹の爪団って凄い!

その後、私は彼らの秘密を探り、「企業と社会」の授業に活かせないかと考えました。そしてWEB動画を観ているうちに、『鷹の爪団』のコンテンツそのものに惹かれるようになり、結果として、まんまと大ファンになり、正月明けの講義を通販サイト「DLE SHOP」で購入した吉田くんの『島根は鳥取の左側です!Tシャツ』を着て、鷹の爪のネタを通じて倫理学の講義を行うと

いう事態へと転がりました。

吉田くんのモノマネをしながら講義をする荒業も。その後、まるで急な坂道を転がる石のように『鷹の爪』にハマリ、気が付けば、「レオナルド博士の顔付きのポーチ」をバッグにしよばせ、スマホケースも『鷹の爪』。部屋には『鷹の爪』のフィギュアを並べ、劇場版のDVDやブルーレイBOXも購入……。ネットで調べても調べても、なおも謎の残る鷹の爪団。ますます深まる謎が気になり、まんまと買ってしまふ次のDVD。劇場版3作品目のDVDでは、レオナルド博士の知性と、ルックス、行動力、そして愛情深きお人柄に惹かれ、本気でレオナルド博士のことを好きになってしまいました。

また、同時に私の心を捕らえたのが「地方に住みながらメジャーデビューしたクリエイター蛙男の物語」でした。雑誌やテレビドラマなど、たいていのメディアが「東京」という「私の知らない世界」を舞台にしていたものだったので、私は「メジャーな人たち」と自分との「格差」が「絶対的に埋められないもの」だと思い込んでいて、初っ端から諦めていた節がありました。ツイッターで仕事を増やしたというノマド伝説の安藤美冬さんの成功譚も「東京にいるからでしょ」と、まるで夢の国のお話。愛知県郊外に住む私は「蚊帳の外」という一種の疎外感を持っていました。

ですから、『鷹の爪』について調べていくうちに、『鷹の爪』の動画制作者・蛙男の「地方に住んでいながらも、ネットという蜘蛛の糸をつかんだクリエイターの成功譚」が、自分にとっても「蜘蛛の糸」のようなものに。

えー、たった今、気が付いたのですが、私は、鷹の爪団のことを分析した上で講義を行おうとしていたのに、いつの間にか鷹の爪団の魅力に熱くハマっておりますね……。

ここでいったん冷静になり、鷹の爪団とは何なのか?説明させていただきます。WEB動画、テレビ番組、劇場映画として現在多くのメディアで展開されている『鷹の爪』シリーズは、2006年から蛙男こと小野亮が中心となって制作しているアニメーション作品です。

『鷹の爪』シリーズは「悪のベンチャー秘密結社 鷹の爪団」とその敵である「デラックスファイター」のドタバタを描いたギャグアニメ。この鷹の爪団のキャラたちは一見、何の脈絡もないメンバーに見えます。

しかし、よく見ると、彼ら5人のメンバーのユーモア溢れる掛け合いで、現代日本の空気全体を表現しているのでは?と思います。5人のメンバーはそれぞれ以下の概念を具現化していると考えられるからです。

総統→あらゆる権威の失墜を表現、また「ユーモア」で世界平和は実現可能であるという「希望」の象徴

吉田くん→ロストジェネレーション世代の代弁者としてのキャラ

フィリップ→偏差値教育の枠からは外れているけれども働き手として実力がある

レオナルド博士→科学技術&日本の「カワイイ文化」のパワー

菩薩峠くん→シャーマニズム&オタク的なパワーを象徴

この5人が結成した「悪の秘密結社」の名前が「鷹の爪」であり、「鷹の爪」とはトウガラシの意です。当初、この「鷹の爪＝トウガラシの意」に団員の5人のうち4人はまったく気付いていなか

ったところが、また彼らの面白いところなのですが。ちなみに敵役のデラックスファイターが担っているものは「資本主義が牛耳るアメリカの正義」と解釈すると腑に落ちます。レオナルド博士（科学技術要素）がデラックスファイター（資本主義）に買収されて乗り物や武器を開発するのも一種のブラックジョークです。また、実力のあるフィリップが深層心理ではデラックスファイター（資本主義的な価値観）に憧れていて（総統に「夢のぞき機」で深層心理を覗かれたことで判明）、アルバイトから企業の社長へと成り上がる流れも見ものです。

この『鷹の爪』シリーズは他の大作映画と比較しても遜色のない出来……というよりは、他のどのような大作映画よりもユニークで、現代社会を的確に表現していると確信しています。たとえば、あのクリストファー・ノーラン監督のバットマンシリーズ三部作『バットマン ビギンズ』『ダークナイト』『ダークナイト ライジング』よりも、私は『鷹の爪.jp』BOX上巻の映像特典『鷹の爪ライジング』のほうが優れた作品だと思います。

私はバットマン三部作よりも、『鷹の爪ライジング』を推します。断然推します。リストラに遭った吉田くんが公園で、「デラックスファイターに戦闘員を全部倒されていた状態の総統」に出会い、ハトを操って助け、総統の高い志「くだらん国境を取り払い、世界をひとつに結び、疑いやいがみ合いや傷付け合うことなく、格差をなくし、誰の子供も自分の子供のように愛する世界にするための世界征服」に共感し、「仲間に入れてください」と言うシーン。何度観ても涙が出ます。

『ダークナイト ライジング』では、アメリカ中心の西欧文明世界と非西欧世界の二項対立に戻ってしまったような未消化感が残りましたが、その未消化感が『鷹の爪ライジング』でサッパリと洗い流された気がしました。

そもそも、クリストファー・ノーラン監督の『バットマン』三部作は「アメリカという巨大な舞台装置」で繰り広げられた善と悪の物語でした。この『バットマン』が大前提としている「舞台装置」そのものを解体し、一転してギャグにしてしまったのが、『秘密結社 鷹の爪NEO』の第6話「トイレ大作戦」です。このストーリーは以下のような流れになります。

まず、鷹の爪団の秘密基地の「トイレ」の話から始まるのですが、団員の吉田くんのトイレのマナーが実に悪い。吉田くんは団員と共有のトイレを少し侵略することになります。総統はそんな吉田くんに注意をします。すると、何を思ったのか、鷹の爪団はトイレを綺麗にしたついでに、「怪人大工さん」を使って「トイレをどんどん大きくしたらいいじゃないか」と思い付くのです。キッチンも付けたらいいじゃないか……寝室も付けて……。

もはやトイレ全体が巨大化し、ならば全体を移動できるようにしたらいいじゃないか、ということにもなり、最後には「敵が来た時のために武器も付けよう」と、トイレを武装し始めます。そして、トイレは、ついに立派な島になるのです。そこに食料品を調達するためのスーパーができて、銀行ができ、資本主義が台頭、温泉や動物園などの娯楽施設まで作り……遊園地もできます。そしてその遊園地で遊ぶ子供たちを守るために、警察が必要となります。

アメリカという国の歴史と、この「吉田くんの侵略史」を重ね合わせて考えると、見えてくるものがあります。アメリカの歴史は、「もともと先住民が住んでいた大陸」を無尽蔵に開拓していくという前提で始まっています。そして、その過程で、アメリカ側はネイティブアメリカンの人

たちを、かなり強引な方法で大陸の片隅（居留地）に追いやりました。アメリカ大陸を手に入れたアメリカ合衆国。その舞台の上にテーマパーク的なユートピアを作り、その秩序を守る物語として、「バットマン」というキャラクターを象徴としました。テーマパーク的ユートピアの子供の幸福は、テーマパークの「外」の子供たちの不幸の上に成立している面もあると思います。バットマンは、結局、自分の「庭」であるゴッサムシティは守ったけれど、自分の持ち場の「外」の世界の者を根底から救うことはできませんでした。だから、バットマンよりも、鷹の爪団の総統の志「誰の子供でも自分の子供のように愛する」のほうが尊いと思うのです。

ゴッサムシティ的なものの「外」の世界、たとえば、ネイティブアメリカンの伝承には、文化的な英雄「トリックスター」という存在が出てきます。「自由奔放な行為ですべての価値をひっくり返す神話的いたずら者」「文化ヒーローとしての道化」である「トリックスター」というヘンテコな存在が「新たな価値観を持つ未来への道」を切り拓くのです。私は、「鷹の爪団」が今の日本の「トリックスター」になり得ると信じています。

そもそも、凡百のゆるキャラと鷹の爪団は存在意義が全く違います。「地域」を盛り上げるための「ゆるキャラ」は、特定の地域や特産品を盛り立てるためのものでした。グダグダながらも存在が許されている「ゆるキャラ」に、人は「見ているとホッとする」という「心の癒し」を求めてきました。それは、日本の「許し」の文化の基盤の上に成立したものであったと思います。その「許しの文化」が流行すると、今度はプロのデザイナーが出てきて、「しっかりした線でアバウトなゆるさを狙うゆるキャラビジネス」という「狙ったゆるさで走り出す商法」が生まれました。

しかし、その「ゆるさ」も「狙ったゆるさ」も、今では日本に何の感動も刺激も、もたらしてはくれないのです。それに対し、鷹の爪団はゆるいように見えて完成度の高い造形（たまに絵が雑になるのはギャグか予算不足です）であり、島根という特定の地域を盛り上げるように見えて、実は「世界中の島根県的なものすべて」を救おうとするスケールの大きなキャラクターたちなのです。

吉田くんは島根だけを鼻負して推しているわけじゃない。島根のような人、島根のような土地、島根のような島、島根のような国、島根のような山、島根のような犬、島根のような鳩、島根のような食べ物……すべての「島根的なもの」を救う救世主なのです。私も島根のような人間愛知県代表なので、吉田くんの精神性に何度も救われました。

世界中の島根県的なモノ……としましたが、アメリカには「サウスパークがあるじゃないか」「鷹の爪はサウスパークと似ている」……としばしば比較されることがあります。しかし、私にはこれが不思議です。『鷹の爪』と『サウスパーク』は全く違うと思うからです。

たしかに、社会問題を揶揄し、シンプルな造形のキャラクターが動き回ってお話を展開していくところは『鷹の爪』も『サウスパーク』も共通しています。

でも、コンセプトは全然違うものだと思うのです。『サウスパーク』は「うっかり本音を言ってしまう子供の子供の特性」「子供の残虐性」を利用し、それをアニメにして、思春期～オトナが楽しむ番組のような印象を持ちました。子供の造形を盾にしたアダルト番組です。途中で出てくる「小ネタ的なギャグ」も人の心に黒いシミを付けるようなものが多いと思います。

しかし、鷹の爪団は違います。皆が優しいのです。子供が観ても笑えるし、オトナが観ても面白い。そして誰も傷付けない。これは奇跡のようなアニメだと思います。総統も、吉田くんも、フィリップも、菩薩峠くんも、レオナルド博士も、皆がそれぞれに「個性的な優しさ」を持ち、周りの人、そして世界中の人を幸せにしたいと願っています。特に、卓越した知性・技術と愛情、おおらかさをバランスよく兼ね備えているレオナルド博士は、私の理想の人間像です（熊だけ）。社会風刺も日本の「抑制の美学」が効いていて、ちょっとズラしてギャグにして伝える。このような小粋な匠の技は、他国のアニメにはできません。

そして、鷹の爪団はチーム内の優しさもさりげない。ビタミンウォーターのCMに「そっと気付かれぬようドリンクを差し入れる吉田くん」が描かれていました。吉田くんはいつだって総統のプライドを崩さぬよう、そっと陰からサポートします。『鷹の爪.jp』第5話で総統が子供に戻ってしまった日も、皆が一丸となって子守りをしていました。

もともとは、血縁もゆかりもなく、タイプも全然違う人間たちが「ちょっと変わった縁」で鷹の爪団というチームとなっているわけで、その様子は、「血縁を超えた家族」のように見えることがあります。たとえ、「悪の秘密結社」と銘打っていても。

彼らのドタバタ劇は「ホームドラマ」に代わるものになれるかもしれません。現代日本の家族像は多種多様で、今どき、『サザエさん』『ちびまる子ちゃん』のような「旧ステレオタイプ」を描いても、あのような平凡な普通の家族……はなかなかいません。家族のメンバーが「ちょっと変わった父や母」「必ずしも血縁ではない」「シェアハウスの家族」「メンバーが男性だけ」「メンバーが女性だけ」「夫婦とペット」「独身と複数のペット」「独身で脳内の嫁だったりする」場合も……また多いのです。ですから、テレビドラマ界が「ステレオタイプな家族像」を崩壊させている2013年、むしろ、「新しい家族像」として「なんでもアリで、メンバーのタイプも各々全く違うけれども信念のみで繋がっている家族」としての鷹の爪団という見方もアリだと思います。

彼らは、かつてそれぞれが孤独な人生を送る者たち（ただし、フィリップはどこの世界でも適応して上手く生きていけそう）でしたが、総統の「志」に共感して「家族」のような集団になったのです。総統は、世界平和のために本当の家族と別れた男です。その彼が、孤独だった吉田くんと公園で出会い、今では家族のように暮らしている……これだけでも心を打つものがあるんじゃないか。

そして、何より、『鷹の爪』は「ネットで偶然出会えるWEB動画」というところにポイントがあると思います。映画館のマナー講座の動画で出会って「なんじゃこれ」と思った人も多いと思いますが、『鷹の爪』って意外と、ネットの海で偶然出会うリュウグウノツカイ、チョウチンアンコウ的な動画だと思います。

夜中にYouTubeの動画でも観るか……とアクセスし、全然違う動画を観ていたのに、ふと気が付くと、右の関連動画の小窓に鷹の爪団がいる。「なんじゃこれ」と思ってクリックする。ネットの深海で、深海魚の家族に出会い、深海魚の面白さに憑りつかれ、ふと気が付くと浅瀬にいる魚がどうでもよくなる経緯に喩えられると思います。そして『鷹の爪』のWEB動画はSNSなどを介して手軽にシェアできる。そして、面白い動画を介して世界中の人と友達になれる。『サウスパ

ーク』のような「人種差別のネタ」もないので、安心して世界の人と笑い合うことができます。また、世界観の構造を考えると、『鷹の爪』は、世界中のどのようなあらゆるアニメや実写映画よりも、飛びぬけてユニークなのです。WEB動画の劇中に何気なく描かれていますが、実は『鷹の爪』コンテンツの動画は鷹の爪団のレオナルド博士の「怪人製造マシン」で作られた「怪人蛙男」が制作している……という設定でした。「動画作者＝登場キャラの創作人物」とするお話は、これまでありそうでなかった設定です。

似た構造としては、かの大ベストセラー『ソフィーの世界』が挙げられます。『ソフィーの世界』は「ヒルデという実在設定のキャラにプレゼントするために、お父さんが本を書いている。その本の中は哲学の思想（哲学者プラトンのイデアの世界）とファンタジーが融合した世界で、その世界の登場人物がヒロインのソフィー」という前提があって、読者（映画化もされているので鑑賞者）は、ソフィーの視点で現実に出会うという特殊構造になっています。

しかし、『鷹の爪』の構造はもっともっと複雑怪奇です。『鷹の爪』の場合は、「鷹の爪団が怪人製造マシンで創作したキャラ・怪人蛙男」が「鷹の爪団を描いたFlashアニメ」を制作、それをネットに流す。

視聴者は「蛙男の制作したアニメを介して鷹の爪団の様子を垣間見る」というパターンですので、複雑さは『ソフィーの世界』に負けていないどころか、最近では、鷹の爪団は次元を超えて「アナザーワールド」に飛び立ちまくっているのです、まさに迷宮のような構造になりつつあると思います。さらに、そこにユーザーと『鷹の爪』間の「ネットの共時性」「偶然に出会う」要素が含まれてくることも面白いかと。

しかも、最近では、動画制作チームの実写を動画の間に入れて「見せてしまう」行為を行っていることに感動します。画期的だと思います。制作チームをどれだけ見せても、「蛙男は怪人製造マシンで作った設定」があるがゆえに、吉田くんたち団員の存在の神秘性は守られているという不思議な構造。

神秘性を守りながらも、作り手の「顔」を見ることができて、安心できる。オープンキッチンのラーメン屋さんのラーメンが安心できるように、調理場を見せてくれるアニメは安心できる。そんなことを思います。「作者の存在を謎めかせて売る」というパフォーマンスに価値を見出せなくなってきた消費者は、オープンキッチン型アニメの開放性に惹かれていくと思いますし、私も惹かれます。

大統領の願いが世界平和だとしたら、私は「『鷹の爪』の面白さを広める」助力になりたい。それが私の願いです。フェイスブックやツイッターでシェアした『鷹の爪』動画が、さらにシェアされ、多くの国に広がっていく……そして、いつか鷹の爪団のアパートの大家さんの「地球もね、宇宙に浮かぶでっかい賃貸物件なんだよ!」の一言で、全人類の目が覚めるかもしれません。インターネットが世界中に繋がっている今こそ、「面白い」「カワイイ」鷹の爪団が世界に出ていくべきなんです。

もし、仮にどこかの国とどこかの国が戦争になったとしても、もしその場に「レオナルド博士」のぬいぐるみやフィギュアが置いてあったなら……その瞬間に戦闘意欲はなくなり、皆「た〜か〜の〜つ〜め〜」のポーズを始めると思います。そういえば、「たかのつめのポーズ」をしなが

ら武器は持てないんですよね。

「かわいく」「楽しく」「優しい」キャラの物語で、幸せになる人が増えますように。そんな思いを込めて、講義を始めたいと思います。

『必修科目鷹の爪』

『秘密結社鷹の爪』初の研究本、6月26日発売！

必修科目 鷹の爪

ITバブルの一夜の夢に沸き、夢に泣いたゼロ年代。
震災を経験し、身の程を知りすぎて
夢を持たなくなったテン年代。
2000年以降のイタさとリアルを、
ネット時代の新・国民アニメ
『秘密結社 鷹の爪』を
テキストに読み解く。

**ネット動画世代のための
あたらしい教養読本**

Naito Rieko
内藤理恵子
愛知大学国際問題研究所 客員研究員

プレビジョン



『秘密結社 鷹の爪』が7年もの歳月にわたって積み上げてきた大量の作品群を社会学者・内藤理恵子氏が読み解く！ ITバブルをスタート地点として、デフレ不況が恒常化したゼロ年代になぜ『鷹の爪』はウケたのか？ そして、10年代に入り、NHKでの『鷹の爪』新シリーズ放送開始以降『鷹の爪』は、子どもたちにとって新しい『ドラえもん』『クレヨンしんちゃん』のような存在に。ゼロ年代とテン年代を象徴する謎多きアニメ『鷹の爪』を徹底論考する初の研究読本

複数の大学で教鞭を取り「現代文化論」「哲学」「文化人類学」

「企業と社会」等の科目を担当する社会学者・内藤理恵子（愛知大学国際問題研究所 客員研究員）が、講義録形式でアニメ『鷹の爪』を解き進む！ゼロ年代～10年代のリアルがそこにある、新感覚書籍

過去七年、『鷹の爪』がネット、テレビで発表してきた作品の豊富な図版、そしてこの秋公開の映画第5弾『鷹の爪GO～吉田、秘密結社やめるってよ（仮）』までをフォローアップ！

一限～六限まで**10万字にも及ぶアツい講義録の受講者にはもれなくクマエさん仕様のレオナルド博士特製シール4種を贈呈!**

一限：『鷹の爪ライジング』は『ダークナイト ライジング』を超えた!?

ITバブルの夢の跡に生まれたオープンキッチン型Flashアニメ『鷹の爪』の新規性

二限：世界平和を目標に掲げながら奥さんに逃げられた男・小泉鈍一郎＝総統。

55歳でどくさい者コスプレ、年金未納の総統は最近多い青春ゾンビのアナロジー?

三限：結局、ホリエモンにはなれずに今日も「いもむしパジャマ」を着て床につきビッグになる夢を見ている

吉田くん、「吉田くんは私だ、ロスジェネ世代の艱難辛苦をすべて味わった私に違いない!」と思う件

「必修科目鷹の爪」 内藤理恵子 著

発行＝プレビジョン 発売＝角川グループホールディングス

ISBN 978-4-04-898213-9

定価:1300円（税込）/ソフトカバー単行本/総ページ数192ページ

特製クマエさん仕様レオナルド博士シール4種入り

ブックログ本棚に登録する

<http://booklog.jp/item/1/4048982133>

Amazonで購入する

<http://www.amazon.co.jp/dp/4048982133/>